

大阪情報コンピュータ専門学校 授業シラバス (2019年度)

専門分野区分	デザイン・作画技法	科目名	デッサンⅣ	科目コード	D0520D2
配当期	前期・ <b>後期</b> ・通年	授業実施形態	<b>通常</b> ・集中	単位数	2単位
担当教員名	畑 卓也	履修グループ	2K(SC/MC/DV2/DA)2 L(MA/DG)	授業方法	演習
実務経験の内容	大学美術学科絵画専攻を卒業後現在までの二十数年間に、絵画・版画・造形などの作品制作と、イラストやデザインなどの仕事を通して得た経験を活かして、人間の視覚や知覚のしくみなどにも触れながら、基礎となる技術習得の指導を行う。				
学習一般目標	<p>更なる構成力と表現力を身につける。</p> <p>複数の形状・質感・色の異なるモチーフを捉え表現できるようになる。</p> <p>人物・動物の骨格をふまえ、かたちや動作を表現できるようになる</p> <p>透視法によって、屋内外の空間を捉え表現できるようになる。</p>				
授業の概要および学習上の助言	<p>受け取る情報の大半は視覚を通して取り込まれます。</p> <p>物を観る眼（モノを把握し捉える能力・観察力）を身につけることで、必然的に描写力や表現力が身についていきます。観ることを忘れずに取り組んで下さい。積み重ねることではか身につけません。</p>				
教科書および参考書	<p>『パーフェクトマスター デッサン・静物』 誠文堂新光社</p> <p>『アーティストのための美術解剖学』 マール社</p> <p>その他、必要に応じてプリント配布。</p>				
履修に必要な予備知識や技能	<p>各自用意するものとして、</p> <p>鉛筆（2H～4B）、練消しゴム、カッターナイフ、デッサンスケール、クリップ</p> <p>水彩道具一式（水彩絵の具、筆、パレット。水入れ、雑巾）</p>				
使用機器					
使用ソフト					
学習到達目標	学部DP(番号表記)	学生が達成すべき行動目標			
	1	空間表現の基本、遠近法の理解と把握し、陰影法により立体感を表現できる。			
	1	鉛筆を使った陰影表現により、立体感を表現できる。			
	1	骨格や構造を理解し、人物表現できる。			
	5	講義と実習において、意欲を持って取り組むことができる。			

達成度評価	評価方法	試験	クイズ 小テスト	レポ ート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポ ー ト フ ォ リ オ	その他	合計	
	総合評価割合						80		20	100
	学 部 D P	1.知識・理解					80			80
		2.思考・判断								
		3.態度								
		4.技能・表現								
5.関心・意欲								20	20	
評価の要点	評価方法	評価の実施方法と注意点								
	試験									
	クイズ 小テスト									
	レポート									
	成果発表 (口頭・実技)									
	作品	授業内制作作品と授業外制作作品(宿題)に対する評価								
	ポートフォリオ									
	その他	授業に対する姿勢や課題に対する取り組み、出席状況								

授業明細表

回数 日付	学習内容	授業の運営方法	学習課題(予習・復習)
第1回 /	各自の力量、苦手部分に対して目標を設定し ①～④のレベルで作品制作。 ①「石膏像」 マルス・アリアス・など		
第2回 /	②「組モチーフ」 ③「二・三個のモチーフ」 ④「一個のモチーフ」 缶・ビン・ランプなど		
第3回 /	●モチーフ①「石膏像」 第1回から12回までを通して制作 構図を考え、構造や骨格、ボリュームと		
第4回 /	細部の関係をしっかりと把握し形を捉え 表現する		
第5回 /	●モチーフ②「組モチーフ」 12回までを通して制作。構図を考え、 空間やボリュームと細部の関係を把握し		
第6回 /	形を捉え、質感や細部まで表現する		
第7回 /	●モチーフ③「二・三個のモチーフ」 2～3個のモチーフを6回で一作品制作 形・質感・色味・文字や模様など細部まで		
第8回 /	こだわった作品を一点ずつ仕上げる		
第9回 /	●モチーフ④「一個のモチーフ」 単体のモチーフを4回で一作品制作 形・質感・色味・文字や模様など細部まで		
第10回 /	こだわった作品を一点ずつ仕上げる		
第11回 /			
第12回 /			
第13回 /	「人体デッサン」 人体骨格の把握と理解		
第14回 /	「人体デッサン」  講評		